

# 社会・民俗

守能信次著

## スポーツとルールの社会学

—《面白さ》をささえる倫理と論理—

〔品切〕 A5 判・358 頁・3,200 円

公正・平等といった価値体系のみに依拠する従来のルール論、スポーツ論の観念性と不毛性を社会科学的視点から鋭く批判し、スポーツ・ルールの存在理由と意味を、その機能と構造に即し根底から問い合わせ。斬新な視角からスポーツとルールへの再考を迫る意欲作。

〔1984〕 978-4-930689-23-8

アルベル・バイエ著 久保田勉訳

## 道徳の社会学

〔品切〕 四六判・218 頁・2,500 円

デュルケムやレヴィ・ブリュールの流れを汲む著者は、言語、宗教、法律、習俗、文学等を素材に道徳現象の科学的研究を企図。ドイツ系の規範的倫理学とは異なるフランス社会学派の道徳研究の視点と方法を明晰・コンパクトに指示する。わが国で初のフランス道徳社会学の紹介。

〔1987〕 978-4-930689-73-3

梶田孝道編

## [第2版] 国際社会学

—国家を超える現象をどうとらえるか—

A5 判・360 頁・2,800 円

民族宗教紛争、移民難民問題、資源環境問題等にみられる近年の国際社会の地殻的変動は新しい社会学を要請している。本書は、個別領域研究の蓄積を踏まえて、これらトランクションナルな生きた現実が提起する主要問題群とアプローチのための視座を提供する「中範囲の理論」化の試み。

〔1996〕 978-4-8158-0173-1

関根政美著

## エスニシティの政治社会学

—民族紛争の制度化のために—

A5 判・338 頁・2,800 円

冷戦終結とともに世界的規模で激化している人種・民族紛争の原因は何か? 人種・民族・エスニシティに関する近年の動向と従来の膨大な諸学説を明快に鳥瞰整理してその本質に迫るとともに、21世紀にむけて最重要の課題である民族紛争の制度化のために、今何が必要かを考察する。

〔1994〕 978-4-8158-0229-5

園田英弘／濱名篤／廣田照幸著

## 士族の歴史社会学的研究

—武士の近代—

A5 判・360 頁・5,500 円

明治維新による旧武士団の解体から新しい階層秩序の形成まで、上昇組と没落組という二極に単純化しない士族層の複雑な軌跡を歴史社会学的視点から解明。封建身分と近代的階層構造との連続性と非連続性や、近代化に果たした旧武士団の役割を明らかにする歴史社会学の成果である。

〔1995〕 978-4-8158-0250-9

V. バレート著 姫岡勤訳 板倉達文校訂 古典翻訳叢書

## 一般社会学提要

〔品切〕 A5 判・412 頁・8,000 円

人間行動の合理と非合理を凝視して「ファシズムのマルクス」とも称されたバレート。本書は20世紀思想界に異彩を放つバレート畢生の大著『一般社会学概論』のバレート自身による縮約版の翻訳の再刊。バレート社会学体系の全貌を鳥瞰し得るとともに、今尚社会諸科学に刺激を与え続ける。

〔1996〕 978-4-8158-0269-1

出口晶子著

日本生命財団出版助成図書

**川辺の環境民俗学**

—鮎郷上河川・越後荒川の人と自然—

A5判・326頁・5,500円

春にはサクラマス、秋にはサケがさかのぼる新潟県荒川をフィールドに、昭和30年代前後から現代にいたる水辺に生きた川人と川の関わり方の生態、川辺の環境変動、またその変動の具体相等々、川辺の民俗と民俗の変遷を掘り起こし、環境保全を人文科学の立場から問い合わせなおす。

〔1996〕978-4-8158-0279-0

吉野耕作著

**文化ナショナリズムの社会学**

—現代日本のアイデンティティの行方—

四六判・306頁・3,200円

1970年代から80年代にかけて輩出した多数の日本人論を文化ナショナリズムの一形態として様々な国の自民族独自論と比較しつつ、「ナショナリズムの消費」という視点を導入して現代日本における文化ナショナリズムの行方を考察。ナショナリズム、エスニシティ研究の新しい方向を示す。

〔1997〕978-4-8158-0315-5

**R.ベネディクト著 筒井清忠／寺岡伸悟／筒井清輝訳  
人種主義 その批判的考察**

四六判・244頁・2,800円

本書は、『菊と刀』で著名なR.ベネディクトがナチスの人種主義への批判をこめて、「人種とは何か」「人種差別とは何であり何故起きるのか」「人種主義の歴史」そして「如何に克服するのか」等を明快に解説したもので、混沌とした現代の人種問題を考えるうえで今なお指針となりうる基本書。

〔1997〕978-4-8158-0326-1

A.D.スミス著 巢山靖司／高城和義他訳

**ネイションとエスニシティ**

—歴史社会学的考察—

A5判・384頁・4,200円

近代的なネイションの底にあるものは何か？ネイションやナショナリズムはまもなく乗り越えられるという楽観的な進化論を再検討するとともに、現在ふたたび生命力を示しているエスニックな要素の起源を探り、前近代的な文化とアイデンティティの運命を明らかにした名著。

〔1999〕978-4-8158-0355-1

重松伸司著

**国際移動の歴史社会学**

—近代タミル移民研究—

A5判・430頁・6,500円

エトノス移民論の視座に立ち、マレー半島に移住したインド移民の移動・定着過程を、大英帝国の移民政策をも含めて明らかにするとともに、移民のコミュニティや複合的ネットワークの実態、そして統合と分化を深めていく移民社会の構造を、現地調査と文献資料の両面から照らし出した労作。

〔1999〕978-4-8158-0356-8

田中恭子著

南山大学学術叢書

**国家と移民**

—東南アジア華人世界の変容—

A5判・406頁・5,000円

華人移民と国家とのせめぎあいのポリティックスを、シンガポールとマレーシアを中心に、政治的アイデンティティの変容と国民統合の過程に焦点をあてて描き出すとともに、華人をめぐる東南アジア諸国と中国との関係を眼光鋭く分析した労作。アジア・太平洋賞特別賞受賞

〔2002〕978-4-8158-0436-7

小林傳司著

**誰が科学技術について考えるのか**

—コンセンサス会議という実験—

四六判・422頁・3,600円

専門家や行政は信用できない？素人は何もわからっていない？社会の中の科学技術のあり方をめぐって専門家と市民が対話する「コンセンサス会議」。日本で初めて行われたこの新たな試みを紹介し、その背景や科学をめぐる公共空間の行方について考える。日経BP・BizTech図書賞受賞

〔2004〕978-4-8158-0475-6

梶田孝道／丹野清人／樋口直人著

## 顔の見えない定住化

—日系ブラジル人と国家・市場・移民ネットワーク—

A5判・352頁・4,200円

移住システムの誕生から「日系ブラジル人問題」発生のメカニズムまで、デカセギをめぐる諸問題を世界的な移民研究の水準で把握。豊かなフィールド調査の成果により労働・生活過程の全体像を初めて本格的に解明するとともに、体系的な移民政策形成の重要性を示した労作。

[2005] 978-4-8158-0502-9

梶田孝道編

## 新・国際社会学

A5判・354頁・2,800円

移民や宗教、人種や民族、メディアなどから生起する新たな越境現象から、国際問題の構造変化を明晰なアプローチで把握。多様な現象の丁寧な分析・腑分けにより、均質化と差異化、包摂と排除の力学が複雑に交錯するグローバリゼーションの実像に迫り、国際社会学の新たな可能性を拓く。

[2005] 978-4-8158-0520-3

小杉泰／林佳世子／東長靖編

## イスラーム世界研究マニュアル

A5判・600頁・3,800円

小林寧子著

南山大学学術叢書

## インドネシア 展開するイスラーム

A5判・482頁・6,600円

S. カースルズ／M. J. ミラー著 関根政美／関根薰監訳

## 国際移民の時代 [第4版]

A5判・486頁・3,800円

仁平典宏著

## 「ボランティア」の誕生と終焉

—〈贈与のパラドックス〉の知識社会学—

A5判・562頁・6,600円

樋口直人著

## 日本型排外主義

—在特会・外国人参政権・東アジア地政学—

A5判・306頁・4,200円

今日、イスラーム世界の存在がクローズアップされ、それに関する情報も飛躍的に増大している。本書は、歴史と現在とともに視野におさめ、最も信頼できる知識を凝縮、誰でもアクセスできる「知の見取り図」を提供すると同時に、研究の最先端へと進んでいける「学びのマニュアル」である。

[2008] 978-4-8158-0594-4

世界最大のムスリム人口を抱えるインドネシア。外来の宗教が地域に根づき、時代と社会の要請に応えて発展しつづける姿を、植民地時代から民主化後の現在まで、イスラーム法の浸透と解釈による現地化を軸に、ムスリム指導者の知的営為や政治との関係にも光をあてて動態的に描き出す。

[2008] 978-4-8158-0596-8

台頭するアジアの移民動向や、新たに浮上した移民と安全保障の問題、シティ즌シップや文化、政治・経済をめぐる移民の新潮流を、定評ある叙述に増補して平易に解説。グローバルな視野で、ますます深まりゆく移民社会化的行方を見通した、もっともスタンダードな世界的概説書の最新版。

[2011] 978-4-8158-0653-2

人々を社会参加へと枠づける言葉は、どのような政治的・社会的文脈で生まれ、いかなる帰結をもたらしてきたのか。その言葉がまとう形はどういうに作動するのか。日本のボランティア言説の展開を辿り、参加型市民社会を鋭く問い合わせ。損保ジャパン記念財団賞、日本社会学会奨励賞受賞

[2011] 978-4-8158-0663-7

ヘイトスピーチはいかにして生まれ、なぜ在日コリアンを標的とするのか? 「不満」や「不安」による説明を超えて、謎の多い実態に社会学からのアプローチで迫る。著者による在特会への直接調査と海外での膨大な極右・移民研究の蓄積をふまえ、知られざる全貌を鋭く捉えた画期的成果。

[2014] 978-4-8158-0763-4

吉野耕作著

## 英語化するアジア

—トランスナショナルな高等教育モデルとその波及—

A5判・240頁・4,800円

英語支配論をこえて、ポストコロニアルな現場から——。中心国によるグローバル支配の道具といった一面的な見方をしりぞけ、マルチエスニックなマレーシアで創出された高等教育モデルとその波及を通して、アジアの英語化の生きた姿を、変動する社会と地域の中でつぶさに捉えた力作。

[2014] 978-4-8158-0779-5

上村泰裕著

## 福祉のアジア

—国際比較から政策構想へ—

A5判・272頁・4,500円

グローバル時代の社会的基盤とは。相互依存の深まる東アジアでは地域全体の福祉拡充が緊要となっている。福祉国家と企業福祉・家族福祉・ボランティア福祉の関係をどう結び直すのか。東アジア諸国間で国際協力は可能か。比較研究から新時代への提言を示す。アジア・太平洋賞特別賞受賞

[2015] 978-4-8158-0813-6

小井土彰宏編

## 移民受入の国際社会学

—選別メカニズムの比較分析—

A5判・380頁・5,400円

誰を受け入れ、誰を排除するのか——移民受入をめぐる風景を一変させた政策と実態の変化を、古典的移民国、EU諸国、後発受入国との比較により鮮明に捉え、排除と包摂のメカニズムをトータルに示す。世界を震撼させる「移民問題」を冷静に考える確かな視点を得るために。

[2017] 978-4-8158-0867-9

野村 康著

## 社会科学の考え方

—認識論、リサーチ・デザイン、手法—

A5判・358頁・3,600円

学際化が進む社会諸学のロジックをいかにして身につけるか。日本で初めて認識論から説き起こし、多様な調査研究手法を整理して、メソドロジーの全体像を提示する。社会科学を実践するための要諦をつかみ、創造的研究を生み出すための最良のガイドブック。日本公共政策学会著作賞受賞

[2017] 978-4-8158-0876-1

安藤 究著

## 祖父母であること

—戦後日本の人口・家族変動のなかで—

A5判・272頁・4,500円

政策の前提にもなっている、幼い孫の手をひくお年寄りという姿は、もはや当たり前ではない。平均寿命の伸びや晩婚化、性別役割分業の変化などを通じて、「祖父母であること」はどう変わってきたのか。ライフコースやジェンダーに着目し、そのリアルな「現在」をとらえた力作。

[2017] 978-4-8158-0882-2

末廣昭／大泉啓一郎編

## 東アジアの社会大変動

—人口センサスが語る世界—

A5判・352頁・5,400円

少子化と高齢化の同時進行、メガリージョンの形成、労働者の越境など——アジアは今、大変動の真っただ中にいる。各国データの徹底分析により急速な変貌を浮き彫りにするとともに、調査の実施方法やこぼれ落ちる問題にも光を当て、東アジアの現在を丸ごと捉える。

[2017] 978-4-8158-0884-6